



柔道と学校行事に注力した中高

4歳の時から8年間、サッカーを続けていました。遠泳やヨット実習など海の実習が多いことに魅力を感じ、中高一貫校である逗子開成中学校に進学しました。当然サッカー部に入ろうと思っていたのですが、体育教師であり柔道部の顧問の先生に柔道部に入らないかと声をかけてもらいました。見学をしてみても面白そうだと思ったことと、顧問の先生がとても信頼できる先生だと感じたので、柔道部に入部しました。初めて出場した大会で優勝し、技を上達させることに楽しみを感じ、柔道にのめり込みました。高校では学校行事の企画に注力しました。体育祭や文化祭などのイベントは生徒主体で進める校風です。コロナ禍明けでの企画は衛生面など配慮する場面が多く、頭を悩ませました。体育の先生にアドバイスをいただきながら、やり遂げたときは達成感がありました。一生懸命に部活動や学校の活動に取り組む中、将来は消防士として人命を助けるという目標ができました。



文系分野から防災にアプローチ

消防士の仕事のなかには災害時の人命救助もあります。防災の分野に興味を持ちました。災害時のデータを用いて具体的な対策を考えることができる社会学分野に進もうと考えました。雪への憧れがあり、北陸地方に行きたいと考えていました。大学について調べ、富山大学の人文学部に社会学を学べるコースがあることがわかりました。高校3年の秋、富山大学の大学祭「富大祭」の時に訪問し、街の雰囲気や橋から見える立山連峰の壮大さに感動しました。富山大学の人文学部の社会学コースで、実際に防災分野の卒論を書いた先輩がいることを知りました。ここでなら自分のやってみたいことが学べると思い、富山大学人文学部への進学を決めました。

日本一の柔道部を目指して

富山へ引っ越してくる時に柔道着を念のため持ってきていました。気づいたら柔道部に入部していました。高校までの柔道はひたすら強くなることを目標に続けていました。大学での柔道は大会運営などで大人と話すことや先輩方の立ち居振る舞いから学ぶことが多くありました。競技自体の魅力はもちろんですが、富大柔道部は「日本一の柔道部を目指す」ことをモットーとしています。柔道の成績のことだけではなく、初心者でも始めることができ、勝つこと以外の面でも柔道に貢献する部活動を目指しています。昨年夏に母校の柔道部と合同の夏合宿を企画しました。母校の恩師のご縁で、この富山で合宿を行い、柔道部OBが10人集まりました。中高、大学の柔道部で得た経験を、母校の後輩のために活かすことが出来、大きな喜びを感じました。

お世話になった高校の先生へ

様々なバックグラウンドを持つ個性豊かな先生方との出会いや、体育祭・文化祭をはじめとする学校行事を生徒主体で自由に企画・運営させていただいた経験が、今の僕を育ててくれました。当時は「無茶だ!」と思うようなことも多くありましたが、今振り返るとそのすべてが愛だったのだと実感しています。あの6年間で得た経験や思い出、そして何より仲間たちは、一生の宝物です。自慢の教え子として逗子開成に凱旋できるよう、これからも頑張ります!

母校の後輩たちへ

人生、どこで何が起こるか本当にわかりません。うまくいっているときはもちろん、うまくいかないときも、その瞬間の「全力」を貫いて努力し続けられ、必ず得られるものがあります。そして、その努力を見てくれる人は必ずいます。「あれがあったから今の自分がある!」と胸を張って言えるような努力を重ね続けていこう!